



防災講話を実施

東京地本城東地区隊長（3等陸佐 河北 秀一郎）は11月13日（火）、東京ベイロータリークラブの合同例会において防災講話を実施した。

当該事業は、以前の講話聴講者からのリクエストに基づき、江東ロータリー親睦委員長である、小嶋映治氏（東京地方協力本部募集連絡員相談会江東支部長）からの要請により、実現したものである。

講話は、「災害への対応と日本の防衛」と題して行われ、自衛隊法に基づく「自衛隊の任務」「災害派遣の法的枠組み」などを解説したあと、陸、海、空自衛隊の行動について紹介した。

中でも、日常生活において海外からの輸入への依存度が高い日本にとって、海上輸送の安全確保が日本人の生活に直結するものである旨の内容に、興味深そうな会員が多数みられた。

また、自衛官という職業も紹介した際には、週休二日制がほぼ維持されているほか、毎日が戦闘訓練や苦しい訓練ばかりではないことについても、認識を新たにしていたようである。

参加した方々からは「災害派遣に行った時は、もっと自衛隊をアピールするべきだ。」や「自衛官の定員はどの位足りてないのか？」等の質問がなされ、講演は盛会のうちに終了した。

城東地区隊では、引き続き駐屯地や基地の所在しない地区隊として、多くの機会を利用し、防災意識の高揚と自衛隊の活動を広く認識してもらい、募集活動につなげていくとしている。



定年退職予定隊員就職説明会を実施

自衛隊東京地方協力本部は、平成30年10月22日から26日までの間、本部会議室において、定年退職予定隊員就職説明会を実施した。

本説明会は、東京都内に再就職を希望する定年退職予定隊員に対し現在の雇用情勢を認識させ、再就職にあたっての意識改革を図るとともに、隊員の再就職に関する個々の状況を確認するために四半期に一度実施しており、今回は平成31年7月から9月までの間に定年退職を迎える51名の隊員が参加した。

22日は援護課による就職援護状況、再就職にあたっての準備事項に関する教育、予備自衛官課による予備自衛官制度に関する教育、東京労働局による都内の求人倍率などに関する職業ガイダンス及び元自衛官による再就職に係る講話を実施した。

23日から26日までの間は、援護課及び一般財団法人自衛隊援護協会東京支部による個別面談を実施して、本人の希望する職種、給与、勤務場所及び勤務時間などに関する希望を確認し、個々の隊員の状況に応じ具体的な助言を行った。

本説明会を皮切りに、定年退職予定隊員は厳しい就職戦線に参戦することとなるが、東京地本は、今後も退職予定隊員がより満足度の高い再就職先へ就職できることを目指して、バックアップを続けていくとしている。

